

(2.1%)だった。

調査の結果、ストリート CSW は、店舗型 CSW に比べると、3.5 倍コンドーム使用率が低いことがわかった。41.8%の CSW が、客とは一度もコンドームを使用したことがない、かつ直近のプライベート・パートナーとのセックスでも不使用だった。9%の CSW が CSW のサポートグループに参加していたが、これらの CSW のコンドーム使用率は高かった。この調査結果は、HIV についての知識があることと、コンドームが無料で手に入ることが、インドでの CSW のコンドーム使用率をあげるのに最も効果的であることを示している。

- 4-2. Hawken, M. P., Melis, R. D., Ngombo, D. T., Mandaliya, K., Ng'ang'a, L. W., Price, J., Dallabetta, G., & Temmerman, M. (2002). Part time female sex workers in a suburban community in Kenya: a vulnerable hidden population. *Sexually Transmitted Infections*, 78 (4), 271-3.

ケニアのモンバサで、2000 年に実施された調査。雪だるま式(インタビューを受けた人が仲間を一人ずつ指名していく方法)で非店舗型 FSW を見つけていった。合計 503 人にインタビューをおこなった。これらの CSW の大半は、SW 以外の仕事をしているかたわら、セックスで収入を得ている。

コンドーム使用率は、いつも使用 145 (29%)、たいてい使用 25 (5%)、時々使用 187 (37%)、まったく使用せず 146 (29%) だった。コンドームを使用しない最大の理由は、顧客に拒否されるからということが明らかになった。

- 4-3. Liu, T. I., & So, R. (1996). Knowledge, attitude, and preventive practice survey regarding AIDS comparing registered to freelance commercial sex workers in Iloilo City, Philippines. *The Southeastern Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health*, 27(4), 696-702.

インドネシアのイロイロ市で、1995 年に実施された調査。SHC で登録を行っている店舗型 SW と、特定の店舗に属さず SHC に登録をしていない、フリーの SW の実態を比較。

登録制 SW110 人、フリー46 人にインタビューをおこなった。74%の登録制 SW が、「いつも/たいていコンドームを使用」なのに対し、フリーSW は 43%。登録制 SW もフリーSW も、エイズのリスクについての認識も同程度に高いという結果からすると、フリーSW の相手の多くがフィリピン人で、顧客の側のエイズについての認識が低いことが要因として考えられるかもしれない。登録制 SW の相手は、外国人が多い。登録システムは、SW がコンドームの使用に対してアサーティブになることを手助けしていることを示唆している。

CSW に対して、効果的な教育メディアは何かも調査したが、そこからは、アウトリーチ・ワーカー 47%、テレビ 23%、新聞 15%、ラジオ 8%、その他 7%という結果が得られた。フリーSW には、アウトリーチ・ワーカーによる教育が有効なのかもしれない。しかしながら、これらの教育プログラムは、男性顧客層に向けても行われるべきである。

この調査を通じて明らかになったのは、(1)CSW だけでなく、男性顧客に対する教育が重要であり、

アウトリーチ・プログラムは、むしろ男性顧客層にターゲットをあてるべきであるということ、(2)教育／政策の変化は、CSWのコントロール、自信、自己肯定感に大きく関わるものであるため、フリーのCSWが、より安全／安心できる社会システムをつくっていくことが大切であるということである。

- 4-4. Morisky, D. E., Pena, M., Tiglaio, T. V., & Liu, K. Y. (2002). The impact of the work environment on condom use among female bar workers in the Philippines. *Health Education and Behavior*, 29(4), 461-72.

店舗環境についての調査を数多く行っているMoriskyらは、フィリピンのバーで働くCSW1,340人と、フリーのCSW308人の比較調査もおこなった。顧客がコンドームを使いたがらなかったとき、その顧客を断ることができる割合は、店舗型が48.2%に対し、フリーは24.6%。フリーの方が、店舗で働くSWよりも、はるかに脆弱であることが明らかになった。

*

以上のことから明らかなのは、非店舗型CSWの方が、店舗型CSWよりも、HIV感染のリスクがはるかに高いということである。また、非店舗型の場合は、店舗型以上に顧客の対応によってCSWの予防行動が左右されやすいことも示唆されている。非店舗型CSWへの対策は、顧客への対策と同時に行われなければ効果がないことも明らかになった。

5. NGOの取り組み

各国のさまざまなNGOが、CSWに対する取り組みを行っており、その報告は数限りなくある⁶。ここでは、欧米型の取り組みとアジアでの取り組みについての対照的な文献を二つ紹介する。

- 5-1. Stella. (2006). *eXXXpressions: Forum XXX Proceedings*. Montreal, Canada: Stella.

2005年5月18日から22日の間にカナダのモントリオールで開かれたForum XXXの会議報告。Forum XXXでは、世界各国から250人のセックスワーカーが集まり、プレゼンテーション、ディスカッション、ワークショップなどをおこなった⁷。Stellaの10周年記念として開催されたこの世界規模のフォーラムは、セックスワーカーの苦悩と闘い、挑戦、人権の要求を強く訴えたものだった。全138ページに及ぶ冊子は、5つの部分からなっている。

第1部では、セックスワーカーの人権がHIV/AIDSとの闘いにおいて本質的な要素と認識するようになった歴史的経緯を述べたオープニング・プレゼンテーションに続き、HIV-prevention initiativesとして始まったセックスワーカーの3つのグループ(カナダ、インド、フランス)の見解が提示される。これらのプレゼンテーションは、各国におけ

⁶国際エイズ会議の要旨集、NSWP Report [Network of Sex Work Projects, 2006]など。

⁷セックスワークの概念は、1970年代に欧米で、売春の権利運動を通じて現れたが、こうした一連の権利運動については、本書のイントロダクションで詳しく触れられている(p. 4)。

るセックスワーカーの置かれた状況を報告し、抑圧的な社会状況の中で、賢明で創造的な方法でセックスワーカーへの敬意と公正さを要求するこうした組織の誕生が、いかにチャレンジングだったかを表している。

第2部では、どういったセックスワーカーの個人的な戦略が、健康維持、安全の確保、セックスワーカーへの敬意を得るための集団的なアクションへと導かれるかという問題に焦点が当てられる。第3部では、セックスワーカーをとりまく社会環境がテーマになる。各発表者は、それぞれの地域の社会的状況を語るとともに、そこで偏見や差別、暴力に対してどのように対応してきたかを報告した。第4部は、法、政策、他の社会的規制がセックスワーカーの生活や労働にどういった影響を与えているかについて論じている。また、過去30年においておこった主要な法的規制にたいする挑戦についても議論している。発表では、フランスにおける Sarkozy Law の影響、ニュージーランドでの合法化、スウェーデン・モデルの問題点が提示され、ディスカッションがこれに続く。第5部は、イラスト、新聞雑誌等の切り貼り、会議のために作られたおみやげなどからなる、いわば「ラウンジ」タイプのプレゼンテーションになっている。最後には、Stella の代表である Claire Thiboutot による” Designing Our Future” と題された、クローキング・プレゼンテーションが収録されている。また、この冊子 *eXXXpressions* の付録には、世界の60余のセックスワーカー団体の連絡先が、掲載されている。

5-2. Law, L. (2000). *Sex Work in Southeast Asia : The Place of Desire in a Time of*

HIV/AIDS. London & New York: Routledge.

上記の欧米指導の NGO の取り組みに対し、Law はアジアの視点からアプローチする重要性を説く。Law は、セックス・ツアーリズムとエイズを、グローバル対ローカル、西洋対東洋、力があるもの対ないもの、といった二分法を超えたところで描かなくてはならないと主張する。従来、東南アジアの CSW は、「政治的経済の犠牲者である」とか「世界規模の人身売買の一部である」と言われてきたが、これは当事者たちの世界観や日常の体験を無視するものである。彼女たちの生活は、むしろ、雇用機会や家族への責任、よりよい生活への夢によって枠づけられているのであり、また、外国人観光客との出会いは、ロマンティックな、豊かな生活へのステップという文脈で捉えられることも多い(p. 11)。つまり、性産業の女性は、売春を始めるという自由意志と、売春を彼女らにとっての仕事であると決定づける制限要素の間の緊張の中でいつも決断を迫られているのであり、どちらか一方で理解しようとするのは誤っている(p. 99)⁸。こうして Law は、東南アジアにおける CSW の理解には、ポストコロニアル的なアプローチが不可欠であり、NGO の活動もそうした観点に立つべきであると主張する(p. 120)。

*

以上、2つの文献を比較するならば、前者が CSW のプライドを前面に押し出すことで、また、欧米

⁸ これに類似した議論は、J. Doezema の “Forced to Choose: Beyond the Voluntary v. Forced Prostitution Dichotomy” でも見られる。ここでは、セックスによってお金を稼ぐことが「自発的」か「強制的」かという論争を振り返りながら、こうした二分法が何ら有益な結果へと結びつかないことが指摘されている。[Kempadoo, 1998]

指導型の人権運動を強力に推進することで、状況を打破しようとする立場にあるのに対し、後者は、そうした白か黒かを明確にする欧米の二分法的アプローチは、必ずしも東南アジアのCSWの状況改善に寄与しないのではないかと、NGOも欧米の運動を模倣するのではなく、もっと地域のCSWの置かれた状況に根ざした活動を展開する必要があるのではないかと示唆している。日本のCSWに対する対策を講じる際にも、Lawの提示する視点は重要なのではないだろうか。

特に欧米と日本を比較した場合に考慮する必要があるのが、カミング・アウトとセックスワーカーとしてのアイデンティティの問題である。上記のStellaで明らかのように、欧米では、カミング・アウトをした活動家がセックスワーカーの運動をリードしていくという傾向が強いが、日本では、CSWのカミング・アウトはまだタブーな状況にあり、そうした運動形態をとるのは現段階では難しい。また、欧米でセックスワーカーの人権運動に加わる人たちが、自分たちはセックスワーカーであるという強いアイデンティティを持っている一方、日本のCSWにはそのようなアイデンティティは一般に希薄である⁹。ここに、日本での当事者運動の広がりへの困難さがあるように思われる。

6. その他の関連文献

これまで詳述されていない文献を以下に挙げる。CSWがコンドームを使用しない理由については、顧

⁹ 同様のことは、ゲイのアイデンティティについてもあてはまる。Sanders, D. (2005). Flying the Rainbow Flag in Asia (1st International Conference of Asian Queer Studies) <<http://bangkok2005.anu.edu.au/papers.php>>.

客が嫌がるからというものが目立つ。(第一著者のアルファベット順に列記。)

- 6-1. Bandura, A. (1994). Social cognitive theory and exercise of control over HIV infection. In R. J. DiClemente and J. L. Peterson (Eds.), Preventing AIDS: Theories and Methods of Behavioral Interventions (pp. 25-59). New York: Plenum Press.

……HIV 予防に関する社会認知理論。行動変容を促すためには、リスクを回避しなくてはならない理由だけでなく、行動手段、リソース、社会的サポートなども与えなければならない。知識を効果的な自己防衛行動に移すためには、社会的・自己規制スキル及び自分の性的行動をコントロールできるというパワーの感覚(自己効力感)が必要。さらに、性的行動を変えるためには、個人だけを扱っては不十分であり、人との関係のあり方を変えなくてはならない。詳細な理論的考察が展開される。

- 6-2. Blanchard, J. F., O'neil, J., Ramesh, B. M., Bhattacharjee, P., Orchard, T., & Moses, S. (2005). Understanding the social and cultural contexts of female sex workers in Karnataka, India: implications for prevention of HIV infection. *Journal of Infectious Diseases*, 191 (Suppl 1), S139-46.

……インドで1,588人のFSWに調査。伝統的なデバダーシと、そうでないFSWとは、

社会行動様式にさまざまな違いがあり、異なる方法での予防介入が必要である。

- 6-3. Bucardo, J., Semple, S. J., Fraga-Vallejo, M., Davila, W., & Patterson, T. L. (2004). A qualitative exploration of female sex work in Tijuana, Mexico. *Archives of Sexual Behavior, 33* (4), 343-51.
……25人のFSWへの質的調査。コンドーム不使用の主要因は、客が嫌がるから。また、コンドームなしのセックスする場合、多くの客は、より多くのお金を支払う。
- 6-4. Chattopadhyay, A., & McKaig, R.G. (2004). Social development of commercial sex workers in India: an essential step in HIV/AIDS prevention. *AIDS Patient Care and STDS, 18* (3), 159-68.
……インドのCSWが置かれている状況を検証し、予防啓発の方法を模索する。
- 6-5. Fontanet, A. L., Saba, J., Chandelying, V., Sakondhvat, C., Bhiraleus, P., Rudpao, S., Chongsomchai, C., Kiriwat, O., Tovanabutra, S., Dally, L., Lange, J. M., & Rojanapithayakorn, W. (1998). Protection against sexually transmitted diseases by granting sex workers in Thailand the choice of using the male or female condom: results from a randomized controlled trial. *AIDS, 12*(14), 1851-9.
- 6-6. Grayman, J. H., Nhan, D. T., Huong, P. T., Jenkins, R. A., Carey, J. W., West, G. R., & Minh, T. T. (2005). Factors associated with HIV testing, condom use, and sexually transmitted infections among female sex workers in Nha Trang, Vietnam. *AIDS and Behavior, 9*(1), 41-51.
……ベトナムでの、610人のFSWを対象とした調査。STIがかなり切実である状況を鑑みるに、STI予防としてコンドームのプロモーション・キャンペーンをすることが効果的ではと示唆。
- 6-7. Hansen, H., Lopez-Iftikhar, M. M., & Alegria, M. (2002). The economy of risk and respect: accounts by Puerto Rican sex workers of HIV risk taking. *Journal of Sex Research, 39* (4), 292-301.
……プエルトリコでのドラッグ使用のSW、311人に最新のクライアントとのセックスについて聞いた。
- 6-8. Hosain, G. M., & Chatterjee, N. (2005). Beliefs, sexual behaviours and preventive practices with respect to HIV/AIDS among commercial sex workers in Daulatdia, Bangladesh. *Public Health, 119* (5), 371-81.

- ……バングラデシュでの 300 人の CSW についての調査。コンドーム不使用の主な原因は、客が嫌がるからと報告されている。
- 6-9. Kempadoo, K. & Doezema, J. (Eds.). (1998). *Global Sex Workers: Rights, Resistance, and Redefinition*. New York & London: Routledge.
- ……24 の各国の当事者のエッセイからなる。全体は 4 部構成で、セックスワーク再考、移民とツアーリズム、セックスワーカーの組織、エイズ予防とセックスワーカーのエンパワメントからなる。
- 6-10. Lau, J. T., Tsui, H. Y., Siah, P. C., & Zhang, K. L. (2002). A study on female sex workers in southern China (Shenzhen): HIV-related knowledge, condom use and STD history. *AIDS Care*, 14 (2), 219-33.
- ……南中国(深セン)で 701 人の FSW にインタビュー。コンドーム不使用の主な原因は、客に拒否されるからと報告されている。
- 6-11. Marino, R., Minichiello, V., & Disogra, C. (2003). Male sex workers in Cordoba, Argentina: sociodemographic characteristics and sex work experiences. *Pan American Journal of Public Health*, 13 (5), 311-9.
- ……アルジェンチンで実施された男性セックスワーカーに対する調査。ストリートワーカーも対象に含まれている。
- 6-12. Network of Sex Work Projects. (2006). The 16th international aids conference. NSWP Report.
- ……2006 年にカナダで開かれた第 16 回国際エイズ会議での、CSW に関する部分の報告。
- 6-13. O'Neil, J., Orchard, T., Swarankar, R. C., Blanchard, J. F., Gurav, K., & Moses, S. (2004). Dhandha, dharma and disease: traditional sex work and HIV/AIDS in rural India. *Social Science & Medicine*, 59(4), 851-60.
- ……デヴァダーシ(南インド)とナット(北インド)という伝統的な SW についての考察。
- 6-14. O' Neill, M. (2001). *Prostitution and Feminism: Towards a Politics of Feeling*. Cambridge, UK: Policy.
- ……フェミニズムとセックスワークについての理論的考察。ethno-mimesis のアプローチ(周縁化されたグループの参与観察及びその研究成果を芸術的な形式で表現する方法)。
- 6-15. Parsons, Jeffrey T. (ed.) (2005). *Contemporary Research on Sex Work*. New York: The Harworth Press.
- ……12 の論文からなる。セックスワーカーの多様性に対する多様なアプローチが紹介されている。
- 6-16. Rosenthal, D. & Oanha, T. T. (2006).

Listening to female sex workers in Vietnam: influences on safe-sex practices with clients and partners. *Sexual Health*, 3 (1), 21-32.

……ベトナムでの FSW25 人に対する質的調査。コンドームを使わない要因には、高いお金が稼げる、お客がコンドームなしを要求する、コンドームを持ち歩いているとセックスワーカーだとばれてしまう、ということが挙げられている。

- 6-17. Ray, S., van De Wijgert, J., Mason, P., Ndowa, F., & Maposhere, C. (2001). Constraints faced by sex workers in use of female and male condoms for safer sex in urban Zimbabwe. *Journal of Urban Health*, 78 (4), 581-92.

……男性用及び女性用コンドームを配布し、使用率を調査。女性コンドームを使わなかった主な理由は、見慣れない方法に客が不信感をもつからだと報告されている。

- 6-18. Stachowiak, J. A. (2005). "I have managed to remain human": A qualitative and quantitative examination of human rights, sex work and HIV/STIs in Russia. Ann Arbor: Pro Quest.

……ロシアにおいて、セックスワーカーの HIV/AIDS 問題を、人権問題として位置づける試み。

- 6-19. Sumartojo, E. (2000). Structural factors in HIV prevention: concepts,

examples, and implications for research. *AIDS*, 14(Suppl 1), S3-10.

……HIV予防における構造的要因についての文献レビュー。

- 6-20. Xia, G., & Yang, X. (2005). Risky sexual behavior among female entertainment workers in China: implications for HIV/STD prevention intervention. *AIDS Education and Prevention*, 17 (2), 143-56.

……上海の female entertainment worker 40 人へのインタビュー。

- 6-21. Yadav, G., Saskin, R., Ngugi, E., Kimani, J., Keli, F., Fonck, K., Macdonald, K. S., Bwayo, J. J., Temmerman, M., Moses, S., Kaul, R. Kibera, & HIV Study Group. (2005). Associations of sexual risk taking among Kenyan female sex workers after enrollment in an HIV-1 prevention trial. *Journal of Acquired Immune Deficiency Syndromes*, 38 (3), 329-34.

……ケニアで 466 人の FSW に調査。2年後にフォローアップも行った。ナイトクラブの FSW は、若く、稼ぎもよく、コンドーム使用率も高いが、個人の家で働く FSW は、その正反対である。バーで働く FSW は、両者の中間であることが明らかになった。

おわりに

本稿では、CSW と顧客あるいは店舗環境との関係性に着目した海外の先行調査研究を中心にレビューを行ってきた。研究調査の対象により、男性顧客、経営者・店舗従業員、CSW と店舗環境との関係、非店舗型 CSW、NGO の取り組みと分類し、カテゴリーごとに考察を加えてきたが、それらをさらにまとめると次のようになる。

- ① 顧客に対する大規模調査や予防介入は各地で実施されており、一定の効果をあげている。
- ② CSWの行動変容は、マネージャーや店舗従業員の理解があってはじめて促される可能性が高いことが示唆されている。
- ③ 非店舗型CSWの予防行動は、店舗型以上に、顧客の態度によって左右されやすい。
- ④ 欧米流の人権運動だけではなく、アジアのCSWの文化・社会的状況に即した予防介入方法を開発する必要がある。

最初にも触れたが、わが国のCSWに対する予防啓発活動は、CSW当事者が中心になって行ってきた。しかし、本稿が示すように、CSWをとりまく環境を整備していくことも非常に重要である。非当事者によるCSWに対する予防介入がパターンリスティックに陥るのは避けなければならないが、CSWの自立を促すだけでなく、そうした自立を支援する環境づくりも行っていくことが、これからの課題と言えるのではないだろうか。ここで紹介した海外の先行事例は、そうした新たな取り組みへのヒントを数多く与えてくれている。これらを生かしな

がら、日本の実情にあった「しかけ」づくりを開発し、実践していくことが今後期待される。

資 料 編

2008年12月22日号

不倫夫婦 男たち2000人の性乱倫報告

風俗エイス

金正日に寵愛「大女優」が決死の脱北ヌード告発

週刊ポスト

2008 DEC. 12.22

330円

安倍腹心企業がヒューザー物件を買い漁り!

国民に大増税を強いる一方で、血税を使って東京妻と甘い生活、別荘中の本妻も直撃!

本間愛人と官舎同棲をスクープ撮り!



- 伊藤ナツは通算 判決回避に... 庶民を守り続けた 気骨の判事は なぜ死んだのか
- 内幕追跡 人気お笑いタレントとS.俳優O! 石原真理子 暴露本は 削られた有名人の戦慄恐ろ
- 早期退職に市議員の85%が応募も 借金360億円の財政破綻! 第2の夕張市に... 都市の名前
- お元気ですか? プレミアバカ売れ、TVキャラは急騰 新庄剛志、再就職戦線に突いあり
- 手弁当のボランティアが内部告発! 広島「ドッグはーく」最大100社に 5900万圓はどこへ消える?

間の研究。を一挙公開 経を低下させ!

「夜」男模様

郵政造反組復党問題

万ネと利権と怨念

骨肉内紛の

川村ゆきえ ほしのあき 大久保麻梨子 夏目ナナ

が「反論」

それでも孫正義「携帯 電話革命は得をする!

男たちの性乱倫 緊急大アンケート

学校崩壊の共犯者たち

料金受取人私



差出有効期間
平成19年11月
5日まで

1018021
123

東京都神田郵便局私書箱8号

小学館

週刊ポスト42号

緊急大アンケート 発行



1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14						
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10										
3-1	1	2	3	4	5	6	7	8												
3-2	1	2	3																	
4	1	2	3	4	5	6														
5	1	2	3	4																
6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16				
7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16				
8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
9	1	2	3	4	5	6	7													
10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16				
12	1	2																		
13	1	2	3	4	5	6														
14	1	2	3																	
15	1	2	3	4																
16-1	1	2	3	4																
16-2	1	2	3	4																
16-3	1	2	3	4																
16-4	1	2	3	4																
16-5	1	2	3	4																
16-6	1	2	3	4																
16-7	1	2	3	4																
16-8	1	2	3	4																
16-9	1	2	3	4																
16-10	1	2	3	4																

キリトリ

※マークは濃くはつれりと塗りつぶしてください

記入例
① ● ③

17	1	2	3	4	5	6								
18	1	2	3	4	5	6								
19	1	2	3	4	5	6								
20	1	2	3	4	5	6								
金くぬい すすぐ すすぐ すすぐ すすぐ すすぐ すすぐ														
21-1	1	2	3	4	5	6								
21-2	1	2	3	4	5	6								
21-3	1	2	3	4	5	6								
21-4	1	2	3	4	5	6								
21-5	1	2	3	4	5	6								
22	1	2	3	4	5	6								
23	1	2	3											
24	1	2												
25	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
26	1	2	3	4	5	6	7	8						
27	1	2	3	4										
28	1	2	3	4	5									
29	1	2	3	4	5	6								
30	1	2	3	4	5	6	7	8						
31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
32	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
33	1	2	3	4										
34	1	2												
35	1	2	3	4	5	6	7							
36	1	2	3	4	5	6								
37	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
38	1	2	3											
39	1	2	3	4	5	6	7	8						
40	1	2	3											
41	1	2	3	4	5	6	7	8						
42	1	2	3	4										
43	1	2	3	4	5	6	7							
44	1	2	3											
45	1	2	3	4	5	6								
46	1	2	3											
47	1	2												

住所	〒	
フリガナ		
氏名		性別 男 ○ 女 ○

総額160万円・
計3020名
にプレゼント!

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業「東研究班」・週刊ポスト合同企画

男たちの「性と生」 緊急大アンケート

当アンケートにおける回答および 個人情報の取り扱いについて

お読みください

当アンケートでは、性風俗についての個人的な経験をお聞かせし、調査にご協力いただいたみなさまのプライバシーと個人情報をお守りするために、以下のような工夫をしています。

- 回答ハガキには「性風俗」ということばは印刷されておりません。郵送の過程などで何についての回答かを知られることはございません。
- マークシート方式による回答は、自動読み取り機で処理します。
- 回答は、当調査以外の目的に使用されることは一切ありません。
- 調査結果は数字のみで示されます。個人のお名前と回答をむすびつけることは一切ありません。
- 集められた回答用紙は「東研究班」が厳重に保管します。
- ご住所、お名前はプレゼントの発送、および第2次アンケートにご協力いただける方へのアンケート用紙郵送のみに使用され、それ以外の目的で使われることは一切ありません。ご住所・お名前のデータは、プレゼント発送・第2次アンケート郵送のち、速やかに消去・廃棄されます。

プレゼントを希望される方は、回答ハガキにご住所・お名前をご記入ください。プレゼントを希望されない場合は、ご住所・お名前のご記入は必要ございません。また、個人情報の管理を徹底いたしますが、不可抗力により、個人情報外部に漏れる可能性がないとはいきません。個人情報流出の危険を避けたい方は、ご住所・お名前を記入しないでください(この場合は、プレゼントを希望されないものとみなします)。

では、以下よりアンケートを開始いたします。恐れ入りますが、回答者は男性で性風俗サービスを利用したことのある方に限定させていただきます。お答えは、本誌綴じ込みの回答ハガキにご記入ください。

私も研究班は、厚生労働科学研究費補助金を受け、性風俗の利用者、従業員、またそれらの人々の家族などの安全と健康に役立つ施策を社会に提案することを目的として、調査研究活動を展開しております。よりよい施策の提案を行なうには、現況を把握し、多くの方の意見を集約する必要があります。

そこで、研究班はこのたび、週刊ポストと合同で男性の「性と生」に関するアンケート調査を実施し、皆様からご意見をお寄せいただけないかとお願いする次第です。

なお、アンケート調査にご協力いただいた謝礼として、該当する全ての質問にお答えくださった方のうち抽選で3000名にQUOカード5000円分をプレゼント、さらに、抽選で20名の方に現金5000円分をプレゼントいたします。応募締切は11月26日(当日消印有効)です。また、今回の調査結果は週刊ポスト誌面で報告する予定です。



この調査結果は日本の性感染症対策のためのデータとなり、予防に生かされます。ぜひご協力ください。

第1部 「東研究班」からの質問

1. ご自身についてお尋ねいたします。以下のごことがらについて、ご自身にあてはまる回答選択肢を選び、回答ハガキに鉛筆あるいは黒のボールペン、サインペンでマークしてください。

1. 年齢
- ① 18歳未満
- ② 18〜22歳
- ③ 23

当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。また、雑誌公正競争規約の定めにより、この懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に入賞できない場合があります。

【問い合わせ先】
東 優子研究室
〒599-8531 大阪府堺市中央区学園町1番1号 大阪府立大学 人間社会学部社会福祉学科
TEL: 090-5468-4422 (月~金10:00~17:00)
E-mail: higashihan@sw.osakafu-u.ac.jp



- ① 25歳④ 26～30歳⑤ 31～35歳⑥ 36～40歳⑦ 41～45歳⑧ 46～50歳⑨ 51～55歳⑩ 56～60歳⑪ 61～65歳⑫ 66～70歳⑬ 71～75歳⑭ 76歳以上
- 2・職業
- ① 学生② 会社員(事務系)③ 会社員(技術系)④ 会社員(現場従事)⑤ 会社管理職(事務系・技術系)⑥ 公務員⑦ 自営業⑧ 自由業⑨ 無職⑩ その他
- 3-1・最終学歴
- ① 小学校② 中学校③ 高校④ 専門学校⑤ 短大⑥ 大学⑦ 大学院⑧ その他
- 3-2・卒業・中退・在学中のいずれかをマークしてください。
- 4・あなたが1か月間に自

由に使えるお金(お小遣い)はいくらぐらいですか?

- ① 1万円未満② 1万～3万円未満③ 3万～5万円未満④ 5万～10万円未満⑤ 10万～20万円未満⑥ 20万円以上
- 5・あなたの現在の婚姻関係や特定のパートナーの有無を伺います。ここでいう特定のパートナーとは、恋人、愛人、婚約者、事実婚の妻、内縁の妻などを指します。

- ① 結婚している(妻がいる)② 結婚しているが、妻のほかに特定のパートナーがいる③ 結婚していないが、特定のパートナーがいる④ 現在、妻や特定のパートナーはいない

II 以下より、あなたの性風俗経験についてお聞きします。なお、今回のアンケートでは、女性が接客した場合についてのみお答えください。

6・これまで利用したことのある性風俗サービスを、以下の選択肢よりすべてお答えください。

- ① 店舗型ファッションヘルス(ヘルス、ファッションマッサージ、イメージクラブ、性感マッサージ、ソフトSM)② 派遣型ファッションヘルス(デリバリーヘルス、出張マッサージ)③ 風俗系エステ④ ピンクサロン、ヌキキヤバ⑤ ソープランド(個室付浴場)⑥ ビデオBOX、ビデオ個室鑑賞⑦ 派遣型デートクラブ、ホテトル、エステコートサービス⑧ パースナック・クラブなどの女性とのショート(短時間の連れ出し)あるいはロング(外泊)⑨ 温泉コンパニオンなどのショート(短時間の連れ出し)あるいはロング(外泊)⑩ 接待型料理店(旧遊郭、ちよんのみ)⑪ 街娼(立ちんぼ)⑫ ストリップ劇場⑬ 出会い系サイト、テレクラ・ダイヤルQ2・伝言ダイヤルを通じて女性との援助交際、個人売春⑭ SMクラブ・SMパブ⑮ 有料の乱交パーティ、スワッピング・パーティ⑯ その他

- 7・右記(設問6)で回答したものうち、あなたがもっともよく利用するサービスを3つ以内で挙げてください。
- 8・これまで性風俗店で受けたことのあるサービスを、以下の選択肢よりすべてお選びください。
- ① ディープ・キス(濃厚なキス)② 全身リップ(身体を女性の舌で刺激してもらう)③ 手こぎ(女性の手によってペニスを刺激してもらう)④ 玉なめ(女性に睾丸を舌で刺激してもらう)⑤ アナルなめ(女性に肛門を舌で刺激してもらう)⑥ 素股(挿入せずに、女性の股間でペニスを刺激してもらう)⑦ 指入れ(男性の指を膣あるいは肛門に入れる)⑧ 前立腺/アナルマッサージ⑨ クンニ/クンニリングス(女性性器をなめる)⑩ 生フェラ(コンドームなしのオラルセックス)⑪ ゴムフェラ(コンドームをつけたオラルセックス)⑫ 顔射(相手の女性の顔に向けて射精する)⑬ 口内射精で「ごっくん」なし(精液は飲みまない)⑭ 口内射精で「ごっくん」あり(精液を飲み込む)⑮ アナルセックス(コンドーム装着)⑯ ア

- ナルセックス(コンドームなし)⑰ 本番(コンドーム装着)⑱ 本番(コンドームなし、外出し)⑲ 本番(コンドームなし、中出し)
- 9・過去1年間に、8に挙げた行為を伴う性風俗を何回ぐらい利用しましたか? およその数でお答えください。
- ① 1～2回② 3～5回③ 6～10回④ 11～20回⑤ 21～30回⑥ 31回以上⑦ この1年間に利用しなかった
- III 以下より、ご自身の一番最近の性風俗利用についてお聞きします。
- 10・そのとき性風俗を利用した主たる動機(あるいは理由)を、以下の選択肢よりすべてお答えください。
- ① 性欲解消の手段として② 現在、妻や特定のパートナーがいなかったため③ 妻や特定のパートナーとセックスできない状態(妊娠、別居、多忙など)だったので④ 妻や特定パートナーとの関係がうまくいっていないため⑤ 妻や特定のパートナーとは

男たちの「性と生」緊急大アンケート

違う刺激を求めて・違った女性とのセックスを体験したかったので⑥出張先・旅行先の楽しみとして⑦普段できないことをしたかったので、いろいろなプレーが楽しめるから⑧風俗の方が簡単にセックスできるから、食事やデートなどの段取りなしでセックスできるから⑨風俗はあとくされがないから⑩風俗店の女性の方が気楽につきあえるため⑪なじみの風俗嬢の顔が見たかったから⑫癒されたくて、人恋しくて、ぬくもりが欲しかったので⑬セックスの経験を積みたかったので⑭好奇心から⑮店側から誘われたから（なじみの風俗嬢からメール、電話をもらった。勧誘された）⑯友人・知人・先輩に誘われて⑰その他

11・引き続き、ご自身の、一番最近の性風俗利用についてお尋ねいたします。それはどのような種類の性風俗でしたか？ 設問6の選択肢からひとつお選びください。

12・（設問11より）その行為（サービス）には、挿入行為（口・膣・肛門）を伴いましたか？

①はい②いいえ

13・（設問12より）その行為（サービス）には、いくら支払いましたか？

①5000円未満②5000～1万円未満③1万～3万円未満④3万～5万円未満⑤5万～10万円未満⑥10万円以上

14・（設問13より）その時接客した女性は、日本語を母国語とする人でしたか？

①おそらくそうである（日本人である）②おそらくそうではない（日本人ではない）③分からない

15・（設問14より）一番最近の性風俗利用で、あなたはコンドームを使用しましたか？

①接客した女性あるいは店が準備していたコンドームを使用した②使用したラブホテルに備え付けのコンドームを使用した③自分が用意していたコンドームを使用した④使用しなかった

16・リピートしたくなる性風俗店の基準として、次の点をどの程度重視しますか？

「全く重視しない」から「非常に重視する」までの4段階でお答えください。

①全く重視しない②あまり重視しない③重視する④非常に重視する

16-1 接客する女性が自分の好みであること・接客態度がよいこと

16-2 サービス内容・オプションに本番が入っていること

16-3 自分にとって手ごろな価格であること

16-4 安全に遊べること（ゆすり、ぼったくり、脅し、ヤクザの介入がないこと）

16-5 生フェラ・ゴムなしの本番など生のサービスが受けられること

16-6 入りやすい店構えであること、店内の雰囲気があること

16-7 プライバシーが保たれること、個人情報を守られること

16-8 店全体に清潔感があること、個室の衛生管理がしっかりしていること

16-9 店や接客する女性がエイズや性感染症の予防に気を配っていること

16-10 店や接客する女性が必ずコンドームを使うこと

IV ご自身のふだんのコンドーム使用についてお聞きいたします。

17・あなたは性風俗以外のセックスでコンドームを使いますか？

①常に使用する②ほとんど使用する③ときどき使用する④ほとんど使用しない⑤全く使用しない⑥性風俗以外でセックスをしたことがない

18・あなたは性風俗でフェラチオ（オーラルセックス）を受けるとき、コンドームを使いますか？

①常に使用する②ほとんど使用する③ときどき使用する④ほとんど使用しない⑤全く使用しない⑥性風俗でフェラチオを受けたことがない

19・あなたは性風俗で膣挿入（セックス、本番）をするとき、コンドームを使いますか？

①常に使用する②ほとんど使用する③ときどき使用する④ほとんど使用しない⑤全く使用しない⑥性風俗で膣挿入をしたことがない

20・あなたは性風俗で肛門挿入（アナルセックス）をするとき、コンドームを使いますか？

①常に使用する②ほとんど使用する③ときどき使用する④ほとんど使用しない⑤全く使用しない⑥性風俗で肛門挿入をしたことがない

V ご自身の健康についてお聞きいたします。

21・これからの人生で、あなた自身が次の病気にかかる可能性はどれくらいあると思いますか？「全くない」から「大いにある」までの5段階でお答えください。

①全くない②おそらくない③あるかもしれない④おそらくある⑤大いにある

21-1 風邪やインフルエンザ

21-2 がん・脳卒中・心筋梗塞

21-3 エイズ（HIV/AIDS）



21-4 エイズ以外の性感染症(クラミジア、ヘルペス、淋病、毛じらみ、梅毒など)
 21-5 クロイツフェルト・ヤコブ病(BSE感染症/狂牛病)
 22. あなたの周囲にはエイズやその他の性感染症にかかった経験のある人はいまですか? あてはまるものすべてにマークしてください。
 ①エイズ(HIV/AIDS)にかかった経験のある人を知ったことがある
 ②エイズ(HIV/AIDS)にかかった経験のある人の話を聞いたことがある
 ③エイズ(HIV/AIDS)にかかった経験のある人を全く知らない
 ④エイズ以外の性感染症にかかった経験のある人を直接知っている
 ⑤エイズ以外の性感染症にかか

た経験のある人の話を聞いたことがある
 ⑥エイズ以外の性感染症にかかった経験のある人を全く知らない
 23. あなた自身はこれまで何らかの性感染症にかかったことがありますか?
 ①ある
 ②ない
 ③分からない
 24. あなた自身はこれまでエイズの検査(HIV抗体検査)を受けたことがありますか?
 ①ある
 ②ない

第2部 (週刊ポストからの質問)

VI. 結婚している、または特定のパートナー(恋人、愛人、婚約者、事実婚の妻、内縁の妻などを指す)をお持ちの方に、性生活について

25. 妻、あるいは特定のパートナーの年齢は?
 ①18歳未満 ②18〜22歳 ③23〜25歳 ④26〜30歳 ⑤31〜35歳 ⑥36〜40歳 ⑦41〜45歳 ⑧46〜50歳 ⑨51〜55歳 ⑩56〜60歳 ⑪61〜65歳 ⑫66〜70歳 ⑬71〜75歳 ⑭76歳以上

26. 妻、あるいは特定のパートナーとのセックスの頻度はどのくらいでしょうか?
 ①ほぼ毎日 ②週に2〜3回 ③週に1回程度 ④月に1〜2回程度 ⑤2〜3か月に1回程度 ⑥半年に1回程度 ⑦年に1回程度 ⑧全くしない

27. 妻、あるいは特定のパートナーとのセックスに満足していますか?
 ①大変満足している ②満足している ③あまり満足していない ④満足していない ⑤セックスで、あなた自身が射精に至る頻度はどのくらいですか?
 ①毎回射精に至る ②7〜8割程度は射精に至る ③5割程度は射精に至る ④2〜3割程度は射精に至る ⑤ほとんど(もしくは全く)射精に至らない

29. セックスで、相手の女性(妻あるいは特定のパートナー)がオーガズムに至る頻度はどのくらいですか?
 ①毎回オーガズムに至る ②7〜8割程度はオーガズムに至る ③5割程度はオーガズムに至る ④2〜3割程度はオーガズムに至る ⑤ほとんど(もしくは全く)オーガズムに至らない

30. 妻あるいは特定のパートナーとのセックスで不満に思うことを、以下の選択肢からすべてお選びください。とくにマークしてください。
 ①相手の反応が悪い ②体の相性が悪いと感じる ③相手の容姿に性的な魅力を感じない ④マンネリして刺激を感じることができない ⑤自分の要求するプレーに応じられない ⑥ED、病気などでしたくてもできない ⑦相手からセックスを拒否さ

お聞きします。そつでない方は、設問47にお進みください。

れる ⑧不満はない
 31. 現在の妻あるいは特定のパートナーとのセックスで行なったことがあるものを、以下の選択肢よりすべてお選びください。
 ①手を使った相手の性器への愛撫 ②フェラチオ ③クニニ ④アナルなめ ⑤SMプレー ⑥コスプレ ⑦口内射精 ⑧顔射 ⑨パイプなど性具の使用 ⑩アナルセックス ⑪野外でのセックス ⑫夫婦交換(スワッピング)
 32. 妻あるいは特定のパートナーとのセックスストレスを避けるためにしている工夫を、以下の選択肢からすべてお選びください。とくにない場合は⑩にマークしてください。
 ①2人で旅行やデートをする ②ラブホテルやシティホテルに宿泊する ③相手にセクシーな下着や衣服を着せる ④セクシーな映画やビデオ・DVDを一緒に観る ⑤一緒にシャワーやお風呂に入る ⑥勃起不全解消薬を飲む ⑦栄養ドリンクや食事などで、精力を付けるように心がけている ⑧気が乗らな

男たちの「性」と「生」緊急大アンケート

くても定期的にセックスを行なうように心がけている
 ⑨ 楽しい会話を増やすようにする
 ⑩ 特に工夫はしていない

33. 妻あるいは特定のパートナーとのセックスと、自慰行為の割合について教えてください。

① 自慰行為の方が多い
 ② セックスと自慰行為の割合は半々程度である
 ③ セックスの方が多い
 ④ 自慰行為もセックスもほとんどない

34. 現在、結婚している方に、不倫の経験をお聞きします。経験のない方は、設問47にお進みください。

34. まず、不倫の経験についてお聞きします。この場合の不倫はセックスを伴った男女交際のことを指します。性風俗での性交渉については含みません。

① 不倫の経験があり、現在も不倫中である
 ② 不倫の経験はあるが、現在は不倫をしていない
 35. これまでの不倫相手の人数は?

① 1人
 ② 2人
 ③ 3人
 ④ 4人
 ⑤ 5人
 ⑥ 6人以上
 ⑦ 10人以上

36. 不倫相手との交際期間は最長でどのくらいですか?

① 半年未満
 ② 半年以上1年未満
 ③ 1年以上2年未満
 ④ 2年以上5年未満
 ⑤ 5年以上10年未満
 ⑥ 10年以上

37. 現在不倫している方にお聞きします。不倫相手の年齢は? (複数の不倫相手がいる場合は、最も若い相手についてお答えください)

① 18歳未満
 ② 18〜22歳
 ③ 23〜25歳
 ④ 26〜30歳
 ⑤ 31〜35歳
 ⑥ 36〜40歳
 ⑦ 41〜45歳
 ⑧ 46〜50歳
 ⑨ 51〜55歳
 ⑩ 56〜60歳
 ⑪ 61歳以上

38. 不倫相手は独身それとも既婚者ですか? (これまでに複数の不倫相手がいる場合は、最も最近、交際した相手についてお答えください)

① 独身
 ② 既婚者
 ③ 分からない
 39. 不倫相手とのセックスの頻度はどのくらいでしょうか?

① ほぼ毎日
 ② 週に2〜3回
 ③ 週に1回程度
 ④ 月に1〜2回程度
 ⑤ 2〜3か月に1回程度
 ⑥ 半年に1回程度
 ⑦ 年に1回程度
 ⑧ 1度限りの関係がほとんど
 40. 不倫相手とのセックスの回数と妻とのセックスの回数はどちらが多いですか?

① 不倫相手の方が多い
 ② 妻の方が多い
 ③ 同じくらい
 41. 不倫相手と知り合った経緯について、以下の選択肢から近いものを一つ選んでください。

① 会社の同僚・部下、仕事相手
 ② サークルや愛好会で知り合った
 ③ 馴染みの飲食店・風俗店で知り合った
 ④ 学生時代からの友人・同窓会
 ⑤ 愛人バンク、交際クラブ、出会い系サイトなどの紹介
 ⑥ 合コンや飲み会などで知り合った
 ⑦ ナンパした
 ⑧ 友人の紹介
 ⑨ その他
 42. 不倫のためにいくらか程度予算を準備していますか?

① 月1万円未満
 ② 月1万〜5万円未満
 ③ 月5万〜10万円未満
 ④ 月10万円以上

43. 不倫相手に求める最大のもので何ですか? 以下の選択肢から近いものを一つ選んでください。

① 妻にはない若い肉体・美貌がある
 ② 一緒にいてやすらげる
 ③ 妻にはない知性・人間的魅力がある
 ④ スリルを味わいたい
 ⑤ 愛人を持つというステータスを味わいたい
 ⑥ 妻相手ではできない過激なプレーができる
 ⑦ その他
 44. 妻に不倫がばれたことがありますか?

① ある
 ② ない
 ③ 分からない
 45. 設問44で、「不倫がばれたことがある」と答えた方にお聞きします。不倫がばれた原因は何ですか? 以下の選択肢から近いものを一つ選んでください。

① 携帯電話の着信履歴やメールなど
 ② 香水の匂い、衣服についた口紅など
 ③ 不倫相手と会っているところを見られた
 ④ 日記、手帳を見られた
 ⑤ 妻による調査、尾行
 ⑥ 原因が分からない
 46. 妻の不倫に気付いたこととはありますか?

① ある
 ② ない
 ③ 分からない

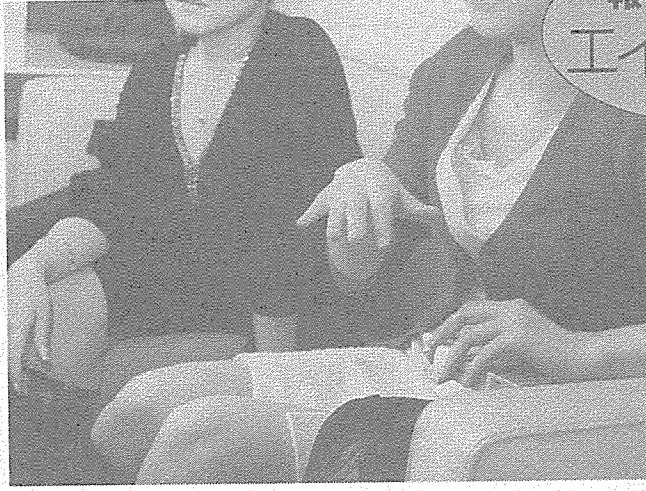
47. 当アンケートに引き続き、「東研究班」では、男性の性風俗利用経験をより詳しくお伺いする第2次調査の実施を計画しております。この第2次調査にご関心のある方、ご協力いただける方には、別途、アンケート用紙を郵送させていただきます。ご協力いただけますでしょうか?

① 協力してもよい
 ② 協力できない

※ご協力いただける場合は、今回のプレゼント郵送先と同じ住所にお送りさせていただきます。なお、第2次調査のアンケートを送付する封筒には「性風俗」ということばは印刷されておりません。

以上で終わります。ご協力ありがとうございました。統計処理された調査結果は小誌にて記事化させていただきます。

コンドームなしの性風俗利用者が4割超で「エイズ感染爆発」は目前!



危機感を持つ風俗嬢も
(右=証言するソープ嬢たち)

「世界に類のない風俗客調査」
今回のアンケートの中で、厚生労働科研「研究班」によって行なわれたのが、「エイズ」と「性風俗」について

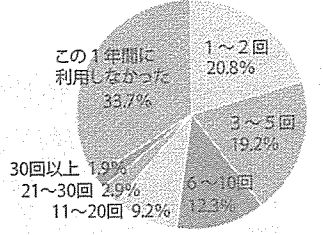
が説明する。
「日本のHIV・エイズ報告数の90%は男性で、しかも20代から50代まであらゆる世代で増えています。しかしこれまで男性を対象にした大規模な予防行動調査はありませんでした。ヘル

ての調査だ。
わが国のHIV（エイズウイルス）感染者（キャリア）及びエイズ患者（発症者）数が累計約1万2000人に達し、先進国中で唯一、増加傾向にある中、その実態調査の一環として行なわれた。
この調査の目的を、第20回日本エイズ学会学術集會会長で、NPO法人ぶれいす東京代表の池上千寿子氏

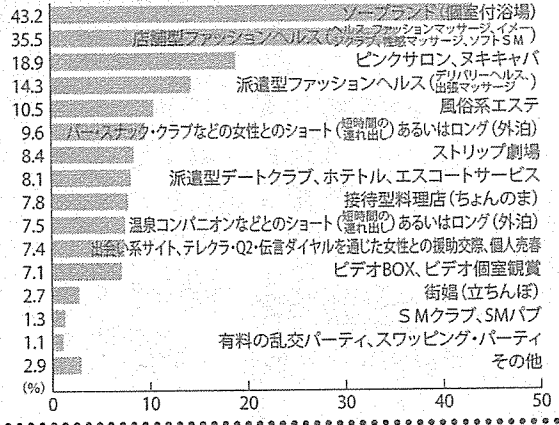
「性風俗で行なわれている行為には、HIV感染リスクの高いものが少なくない。『エイズや性

スで働く女性の調査は数年前にありましたが、予防行動は女性従業者よりも顧客次第という結果がでています。このことから男性の意識、行動調査は今後のエイズ対策の重要な手が必要になります」
今回本誌で発表するものは中間報告。今後、研究班では回答を元にした詳細な分析がなされる。
しかし、現時点で見えてくる傾向からも、性風俗におけるHIVや性感染症の予防の現状は十分ではないとの見方ができる。

⑩ 過去1年間に、性風俗を何回ぐらい利用しましたか？



⑪ もっともよく利用する性風俗は何ですか？(複数回答可)



感染症の予防にはコンドームが不可欠」という基本的な知識が、男性客の意識や行動に浸透していないことが伺えます」(研究の責任者である大阪府立大学人間社会学部社会学科助教授・東優子氏)
HIVが蔓延している背景には、性風俗のサービス内容と、それを受ける男性客の行動が大きく影響して

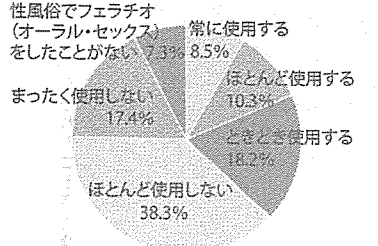
いる可能性が初めて数字によって示されたのである。個別に検証している。風俗経験者のうち、約66%が、過去1年間に1回以上性風俗を利用している(表⑩参照)。
男性が行く風俗として一番多いのが「ソープランド」で43.2%。次に、イメクラ・性感ヘルスなどを含む「店舗型ファッションヘルス」が35.5%で続く(表⑪参照)。
ちなみにソープではセッ

「マナーポスト」**「優美10人が選ぶ」** \$06年上 \$07年上 上がる株お金大特集!
●定価500円(税込) 小学館
大人気発売中!!

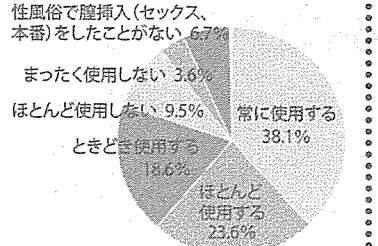
クスありの「本番」が基本。ヘルスでのサービスは、女性の股で男性器を刺激する「素股」、女性の口で男性器を刺激する「フェラチオ」が主流となっている。

男性が受けたことのあるサービスの内容としては一番多いのが、女性が手で男性器を刺激する「手こき」で70・4%。次に「生フェラ(コンドームなしのオーラ

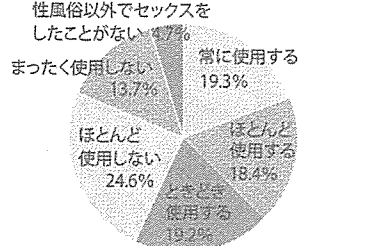
⑳ 性風俗でフェラチオを受けるとき
コンドームをしますか?



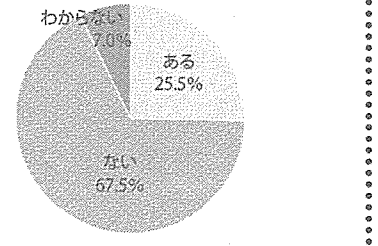
㉑ 性風俗で膣挿入をするとき
コンドームをしますか?



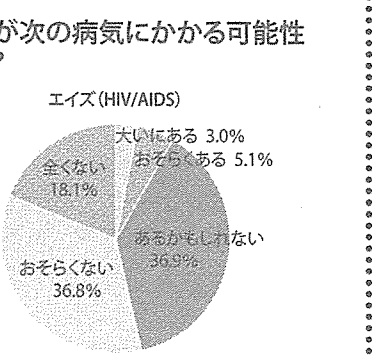
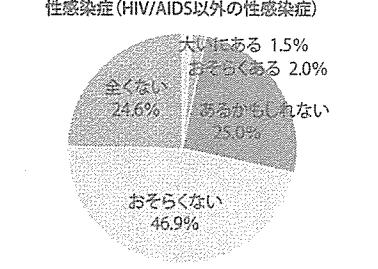
㉒ 性風俗以外のセックスで
コンドームをしますか?



㉓ これまでに何らかの性感染症
にかかったことがありますか?



㉔ これからの人生で、あなた自身が次の病気にかかる可能性
はどれくらいあると想いますか?



「本番禁止」は有名無実

「中出し」などの過激サービスを行なっている店舗もある。「指名を取るためには、それぐらい当然」(ソープ嬢・25)といきる風

ルセックス」が64・7%と続いている(表⑩参照)。問題なのは、「生フェラ」という性風俗用語が象徴し

俗嬢も多い。HIVは感染者の血液や精液、膣分泌液などに触れ、それが体内に入り込むことで感染する。特に性行為の際は、ウイルスを通しやすい粘膜が接触するためリスクが高くなる。

そのため、粘膜接触を避けるためのコンドーム使用が重要となるのだが、今回の調査によると、コンドームを装着しない「本番(中出し)」セックス経験者は42・6%。同じく「本番(外出し)」経験者も34・6%に及んでいる(表⑩参照)。

実際に風俗経験者の40%超が、コンドーム不使用のセックスを風俗で経験していることになる。

コンドーム装着が義務づけられている店でも、風俗嬢に「ゴムなしで頼むよ」と言う客が少なくない。東京・吉原で働く26歳のソープ嬢がいう。



調査にあたった東氏(右)と池上氏(ストップ・エイズキャンペーンのシンボル「レッドリボン」)



「お客は大半が『生でやらせて』といいますがからね。断わりきれない性格の口はやらせちゃう。あと、新人だと、お客にバックからセックスされた際に、こっそりゴムを外されてもわから

BIG COMICS
重位を新れ
伊豆守の新たな一手とは

新・子連れ狼

原作 小池一夫 作画 森秀樹
作画原案 小島剛夕

第9巻
12月26日発売
定価530円税込
小学館

「お客さんと交渉次第だけ、プラス5000円〜1万円で本番させちゃう。特別な技術もいらぬし、黙って寝ているだけでいいから楽だしね。ピルを飲んでるから、さらに追加料金をもらえれば、生でもOK。店にはナイショだけ」

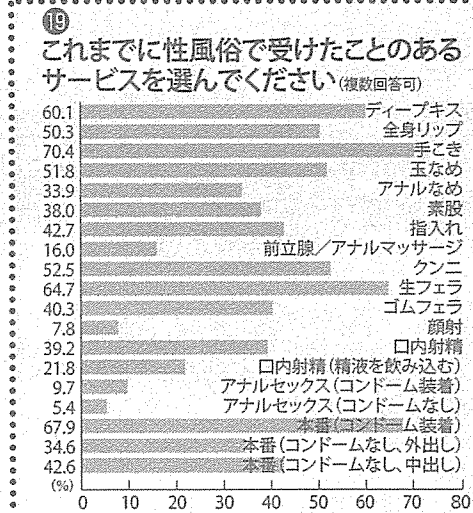
「本番禁止やゴムなし禁止」客側の意識もエイズ予防にはほど遠い。ソープ、デリヘルなどの風俗を年10回以上は利用するという会社社員(42)がいう。

「口内射精はもちろん、の店で、いかに上手くやらせてもらうか」が客の腕の見せ所です。エイズ?大丈夫でしょ。素人の子より「プロ」の方が安全だって聞きましますね」

この「プロ」だから安全というのには完全な思い込み。10店以上のソープ、デリヘルなどを取材したもの

“ディープリキス” “素股”も危険

風俗利用者がさらに留意すべきなのは、「生で本番をしなければ大丈夫」ともいえない点だ。ヘルスプロモーション研究センター長で、厚木市立病院泌尿器科の岩室紳也医師が指摘する。



「定期的な性病検査を義務づけていて、検査結果を見せないと出勤できない」(池袋・デリヘル店主)という店もあるが、ごくごく一部。

「口頭で注意することはあっても、実際に検査したかは確認しない」(渋谷・デリヘル店主)「全く関知しない」(鶯谷・ソープ店主)という声が多かった。

「ま、ヘルスの定番サービスである「素股」も安全とはいえない。男性器と女性器の粘膜をこすりあわせるため、性病およびHIVに感染するリスクがあることは覚えておいてほしい。エイズ問題に携わる専門家の間では「このままの勢いでは感染爆発は目前だ」との指摘が多いが、今回の調査結果から、「エイズ感染爆発」をもたらしかねない状況が明らかになった。

側がコンドームを使いたい、安全に仕事がしたいと思っただけで、店の方針や客の希望によって、それがかわらない状況があると指摘されてきました。つまり、HIVや性感染症の予防は、店と風俗嬢、そして男性客自身の意識と行動の変化が不可欠ということです。今回の結果もそれを裏付けるものになるのではないでしょう」

179

〈東研究班からのお知らせ〉
 正式な分析結果は、今年度末に発表される予定です。
 結果に関するお問い合わせは、
 TEL: 090-5468-4422
 (月~金10時~17時)
 E-mail: higashihan@sw.osaka-u.ac.jp
 までお願いいたします。

性風俗の学術調査

大衆週刊誌が一役

エイズ予防対策

エイズ予防対策を研究する大阪府立大の東優子助教授（性科学）らが「週刊ポスト」の読者を対象に、性風俗産業の利用実態を調査した。対極にあるように見えるアカデミズムと大衆週刊誌の共同作業は珍しい。

性風俗産業関係者のエイズ予防対策の研究では、客の調査は難しかった。そこで40～50代の男性読者が多い「ポスト」に打診。同誌側も「アカデミズム的手法とジャーナリズム的手法の融合で、男たちの『性と生』に新しいアプローチができよう」と協力した。

昨年11月、同誌に質問はがきを

とじこみ、性風俗店を利用したところがある読者から回答を募った。ポスト側からも「不倫」などに関する質問が盛り込まれた。

2124人からの回答は、昨年暮れに「男性の性」全体を扱う記事に、「千人程度は得られると思っていたが、予想以上」と同誌。50代と40代がそれぞれ3割で、過去1年に性風俗を利用した人は66%。これまでに性感染症にかかったことがあるのは26%で、今後自分がエイズにかかる可能性があると考えるのは、45%だった。

東助教授は「無作為抽出ではないが、対象者へのアクセスの難しさなどを考えると、今回の方法はベストだと思う」。回答者のうち約千人を対象に、さらに詳しく調査を実施する予定だ。（鈴木京一）